



<心の穴>

大事な気がかりが終わって
心に大きな穴がひとつ
何をするでもなく
何を求めるでもなく
抜け落ちた心の穴が
どんどんと大きくなって
さて何をすればよいのか
教えてくれるのは自分だってこと
しっかりと分かっているのです
けれど力が入りません
もう少しだけ甘えてもいいですか
美しき人に問うてみた
ただ美しく微笑んで
何処か他人行儀な顔
当たり前ですね
私の事など知るはずも無く
美しき瞳に惑わされて
勝手に片思いを語ってみる

<生かされる事の不思議>

この世界の片すみで
ある日私は生まれた
喜びや悲しみや感動
いつも私に心を与えてくれた日々
時が過ぎて絶望と不安に苦しみ
自分のすべてを終わりにしようと決めた
けれど私に不思議な力で
無へ一步踏み出す事を止めてくれた日
私は新たなる力が授かった
やり残した事があるとさとするように
今その意味を不思議さで感じて
私は言葉をつづる
あの日『貴方』の大いなる存在を知った日
私は新たなる命で生かされた

精一杯悔いの無い生き方をする事を
あの日から私のすべてが変わった
今、生きる喜びを感じる奇跡と感謝
私に与えられた愛の言葉をつづれる事に感謝

<かわらない日々>

病院へ行く朝
雑踏の中で
今日はかなり私の体は不安定

気持ちがふさがちだけれど
昨日と今日は何が変わったの
何もかわりはしない

この体の中に棲みついたあしきものが
時に私を絶望に落とし動きを止め
怒りと不安を高まらせて狂わせても

いつも貴方の微笑みに
穏やかさを取り戻して
日々季節の美しさを感じさせて

一口のチョコは生きる喜び
真っ白な雲の上を散歩するような
バッハの変奏曲の調べのように

何ひとつ変わらない日常がそこにある
明日だって何も変わらない
さあ～今日はどんな夢を見ましょうか

私の隣で微笑む貴方は
少しだけ狂いだした心と体と怒りに
優しく穏やかさをおしえてくれる美しき存在

<大きな夢、小さな夢>

わが相方が今日は元気がない
ちょっと心配になって
なにげなく聞いてみた

ねえ～今、なにを考えてる

ねえ～今、どんな夢見てる

そうだな～さしずめどこかの温泉にでも

ゆっくりと浸かりたいね

美味しいもんでも食べてね

そんな時私はいつもちょっとむかつく
<貴方はいつだって私の三倍は食べてるくせに！>

まあ～たいていはこんな答えが返ってくる

元気な頃は、大好きな車で日本一周したい
それが口癖の働き者

ねえ～今、私なにを考えてると思う
ねえ～今、私、どんな夢見てると思う

夏の日八ヶ岳へ
あの美しい「オヤマノエンドウのお花」を見たい

それとね、もっと、もっと、元気になって
美しき人の国へふたりで行きたい

少し疲れた体を休めてベッドで聴く
美しき人の唄うあの曲を聴きながら

この胸が熱くなって
涙が流れた昼下がり

ちよつとだけ心が揺れてる私

<待ちわびた想い>

初冬の季節に
少しだけ私は歩き

白樺の林を抜ける
心の奥底にある
切なさの残り火

待ちくたびれた恋

誰にも知られずに通り過ぎて行く愛
この身に隠された炎

それはあくまでも奥深く
天の蒼にゆだねて
待ち焦がれるあつい想い

<青い、青い空>

古い記憶の中で浮かぶ
真っ青な空の色

鮮やかに青く何処までも
そんな記憶だけが
私の中でざわめく

狭い部屋の雑多な物が
そんな記憶さえも消して
日々の弱い心だけが叫ぶ

もっと何かが出来るはずだと
まるで自分が泣いているように
心の中で叫ぶ

その次の瞬間又現われた青い空が

まだまだつづくよと囁く声がした

青い空はそんな欲望
私の心の叫びなのだろうか

迷える日には
こんな平凡な時も
あってもいいかな～
ただぼんやりして
美しき人もわすれて
頭の中を空っぽにしてと
教えてくれるでっかいお山
冬の厳しい風に
ふかれた日もあった
あの頃